



八幡小の公式HP <http://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu/hachiman/index.html>

八幡だより

北区立八幡小学校

令和4年9月 第391号



当たり前を大切に

校長 大田 裕子

夏休みが終わり、子供たちが学校に戻ってきました。静かだった教室に活気が戻ってきました。どんな夏休みだったのか、子供たちのお土産話が楽しみです。コロナ禍で過ごす夏休みも今年で3回目となりました。行動制限がなかっただけに各自の判断と責任に任せられた部分が多く戸惑われた保護者の方もいらっしゃったことと思います。そのような中、6年生の子供たちと日光高原学園に行くことができました。一泊2日の行程で沢山の学びがありました。寝食を共にすることの楽しさと集団行動を行う上で必要とされること。協力し合うことと自分で判断すること等体験を通して学んだと思います。日光の大自然に触れ、歴史を感じ、学びを深めることができたのではないのでしょうか。宿泊先でのおもてなしを受け「お蔭様」の大切さを実感したと思います。

様々な体験から今まで当たり前だったことが実はそうではなかったことに気付かされます。世界に目を向けると、半年以上も戦争が続き当たり前の日常を奪われてしまった多くの人達がいます。遠い国の出来事ではなく、自分事として捉えることができる子供に育てて欲しいと願います。平和で穏やかな毎日が全ての子供たちに訪れることを願って止みません。私事ですが、母の教えの根本には感謝の気持ちを忘れないことがありました。原爆が落とされた長崎という地域性と戦争体験者としてなのか「毎日平和に暮らせることを当たり前だと思っはいけないよ。学校に行きたくても戦争で行かれなかった。夜は真っ暗な防空壕ですごさんといかんかった。ノートや鉛筆はもちろん、今日食べるお米だって何もなかったけんね。おなかですいてすいて仕方なかった。いつになったら白いごはんが食べられるかそればかり考えとったよ。有難いという気持ちを忘れんでね。」とよく言われたものです。

時代も異なり、今の子供たちに当てはまらないところもありますが、忘れてはならないことだと思えます。子供たちが当たり前を大切に感じながら日々成長してくれることを期待しています。

日光高原学園

8月5日(金)・6日(土)



生活指導主幹 叶 こみち

●新型コロナウイルス感染予防について●

コロナ禍が続く中、区教委から『夏季休業明けにおける新型コロナウイルス感染症対策について』が出されました。それを受けて本校でもこれまでに引き続き、朝の検温チェックの実施、校舎内での常時マスク着用（給食時以外）、手洗い、ソーシャルディスタンスの徹底、30分毎の換気の実施等、これまで行っている感染対策の一層の徹底、継続を図ります。

●熱中症対策について●

まだまだ暑い日が続く中、熱中症対策も引き続き行います。酷暑の中では校庭での激しい運動や長時間の滞在を見合わせ、こまめな水分補給、着帽等を実施、またWBGT（暑さ指数）の数値をもとに校庭使用の可否を行います。

●子供たちの心のケアについて●

感染症対策が長期化し今後の見通しがもちづらい状況下において、漠然とした不安や深刻な悩みを抱えた子供の増加が懸念されます。本校では9月1日～2日に「こころとからだのアンケート」を実施し、ケアの必要な児童をSC（スクールカウンセラー）や各関係機関へつなげたいと考えています。また、アンケートだけでは把握できないため、各担任他全教職員で全児童を観察し、子供たちの小さな変化、変容を見逃さないように心がけたいと思っています。各ご家庭でも子供の様子で気がかかることがありましたら、ぜひご連絡ください。学校と家庭とで連携して、子供たちが安心して学校生活を送ることができるよう、またどんなことでも相談できる環境等を整えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。